腫瘍センターNEWS

第９号:2014/11/14
不定期発行

家族性腫瘍講演会を初開催

１０月２８日（火）に，臨床講義棟１階　第３講堂にて臨床遺伝子診療部・腫瘍センター共催講演会『北海道大学病院家族性腫瘍講演会「家族性腫瘍との付き合い方」』が開催されました。

北海道大学病院が小児がん拠点病院の指定を受けたことに伴い，小児がんに関する問題について本院の対応を検討するため，３つのワーキンググループ（以下ＷＧ）が立ち上がりました。このＷＧの一つ「家族性腫瘍に関するカウンセリングについてのＷＧ」は最終的に発展的解散をし，臨床遺伝子診療部カンファレンスと統合することとなりました。この際，腫瘍センターは臨床遺伝子診療部を引き続きサポートすること，年に一度，家族性腫瘍に関する教育・啓蒙活動を目的とした講演会を共催することが決まりました。これらのことから今回の講演会が企画されました。

講演会では，臨床遺伝子診療部の山田 崇弘特任講師が司会を務められ，同じく臨床遺伝子診療部の田島 敏広副部長が座長を務められました。前半に臨床遺伝子診療部の柴田 有花遺伝カウンセラーによるミニレクチャー「家系図の正しい使い方」が行われ，後半は特別講演として，東京大学医科学研究所　人癌病因遺伝子分野の村上 善則教授をお招きし「家族性腫瘍とゲノム医療」についてご講演いただきました。

臨床遺伝子診療部・腫瘍センター共催の家族性腫瘍講演会は初めての試みでしたが，当日は院内外から総勢４５名の参加者があり，熱心に耳を傾けていました。会の終盤には質疑応答が盛んに交わされる場面もあり，皆様のご協力のもと盛会のうちに講演会を終えることができました。

当院におけるがん登録の現状について

当院の院内がん登録は，腫瘍センターの設置及びがん診療連携拠点病院の指定に先立ち，２００７年７月に院内がん登録室を診療録管理室内に設置し，院内がん登録業務を開始しました。

院内がん登録とは，病院で診断されたり，治療されたりした全ての患者さんのがんについての情報を，診療科を問わず病院全体で集め，その病院のがん診療がどのように行われているかを明らかにする調査であり，がん診療連携拠点病院においては，毎年調査データを匿名化して国立がん研究センターに提出することが求められております。この調査を複数の病院が同じ方法で行うことで，その情報を比べることができるようになり，病院ごとの特徴や問題点が明らかになるものと期待されています。
集計結果は，「がん診療連携拠点病院等院内がん登録全国集計」として公開されておりますので，ぜひ参照ください。
http://ganjoho.jp/professional/statistics/hosp_c_registry.html

なお，当院の院内がん登録データは，本年１０月現在で２００８年初診以降の症例が６年分，１５，０００件を超えるデータが蓄積されており，この疾患レジストリを病院管理や研究等に活用することができ，病院の医療の質向上にも役立てることが可能です。
データの利用に関しては，診療録管理室の診療情報管理士にご相談ください。

最後にがん登録に関する最新情報としては，昨年１２月１３日衆議院本会議にて「がん登録等の推進に関する法律」が可決・成立しました。
今後は，本年１１月頃に政省令の決定・公布があり，ガイドラインの公開を経て２０１６年１月に法律施行予定となっております。
法律の施行後は，がん登録が義務化されることとなり，今まで以上に個人情報の管理や精度の高いがん登録を行う必要がありますので，今後ともがん登録業務にご理解とご協力のほど，よろしくお願いいたします。

小児がん拠点病院研修会を開催

８月１６日（土）に，臨床大講堂にて「第２回北海道大学病院小児がん拠点病院研修会」が開催されました。

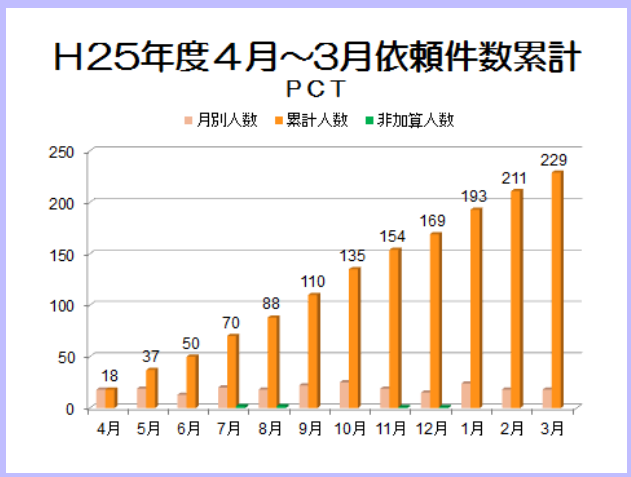
この研修会は，小児がん拠点病院機能強化事業の一つとして行われるもので，小児がんの臨床・研修を推進し北海道での小児がん医療向上と支援を行う小児がん拠点病院として，北海道全体の小児がん患者への良質な治療と支援を目指し，情報交換を行うことを目的として実施されました。

当日は，小児科の井口 晶裕助教による総合司会のもと，同じく小児科の有賀 正教授による開演挨拶があり，その後，聖路加国際病院からお招きした真部 淳小児科医長より「小児がんのチーム医療」と題して同病院における小児がん医療の実情をご講演いただきました。

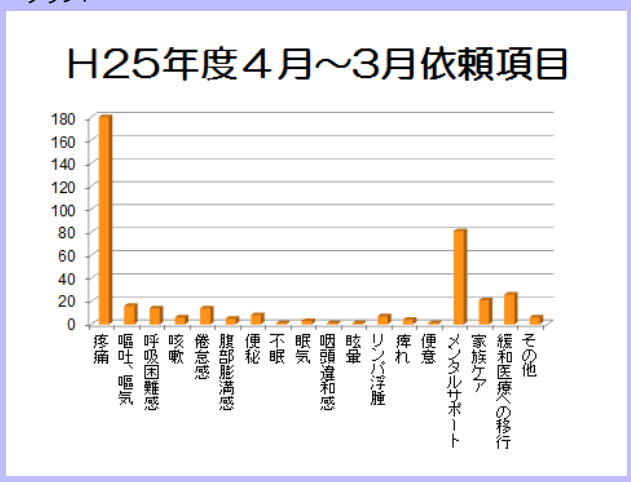
講演では，他職種によるトータルケアの重要性や，「告知」が小児がんの子どもに与える影響など，実際の現場の写真なども交えながら，より具体的にご説明いただきました。

講演後の質疑応答では，本院の現状との比較が話し合われたり，本院ではまだ行われていない分野を聖路加国際病院ではどのように行っているのかなど，活発な意見交換が行われました。

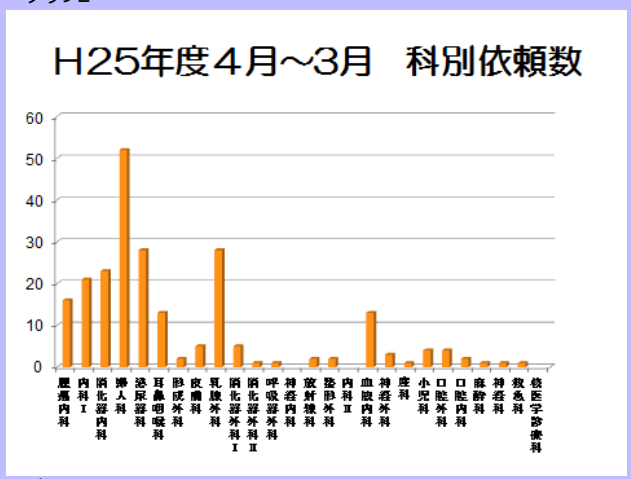
緩和ケアチーム実績



グラフ1



グラフ2



グラフ3

平成２５年度における緩和ケアチームの実績をご紹介させていただきます。

平成２５年４月～平成２６年３月の月別新規紹介患者数（再介入含む）は，平均１９人と安定した実績で推移しており，一年間の累計数は２２９人でした（グラフ１）。

依頼内容は，「疼痛緩和」が４５．６％を占めますが，「メンタルサポート」や「家族ケア」など，患者さんを取り巻く問題についても多くの依頼があることがわかります（グラフ２）。当院の緩和ケアチームは，多職種のメンバーで協力するチーム医療を行っております。緩和ケアチームが昨年の秋に外来新棟へ引っ越したことに伴い，同じフロアへ引っ越しをした地域医療連携福祉センターのメンバーと，以前にも増して密な連携を取ることが可能になりました。今後もチーム医療を通して，今まで以上に患者さんのさまざまな要望に応えられるよう取り組んで参ります。

平成２５年度の科別の依頼件数は，婦人科が５２件と最も多く，次いで泌尿器科と乳腺外科が共に２８件となりました（グラフ３）。各診療科の皆様ともチーム医療の推進ができればと思っておりますので，いつでも気軽に緩和ケアチームにご相談ください。

研修会・講演会のお知らせ

★市民公開講座
　○１２月１３日（土）（学術交流会館）
　　「膵臓がんについて知ろう！」
　　－最新の診断・治療・緩和ケアまで－
　○平成２７年１月３１日（土）（ＡＣＵ「中研修室１２０６」）
　　「北海道大学病院小児がん拠点病院　第１回市民公開講座
　　がんの子どもと家族がもつ課題を共有しよう」

★腫瘍センターセミナー
　１１月１９日（水）（医学部臨床講義棟　臨床大講堂）
　　「がん治療による性腺機能障害を理解する」
　　～がんになっても子どもが欲しいと望む患者への情報提供～
　　①がん治療と性腺機能障害　　血液内科　高畑むつみ
　　②卵子・精子凍結について　　婦 人 科　工藤　正尊
　　③院内ガイドラインについて　血液内科　重松　明男

★外来がん治療研修会※申込みは締め切りました。
　１１月２０日（木）～２１日（金）
　（腫瘍センター　カンファレンスルームほか）

★高度ながん早期診断研修会 合同カンファレンス
　平成２７年１月２９日（木）（医学部臨床講義棟　臨床大講堂）
　　「カプセル内視鏡について（仮）」

ご意見ご感想などはこちらまで･･･
医療支援課　地域医療連携係
Email：itiiki@jimu.hokudai.ac.jp